

「大学入学共通テスト」問題作成の方向性等が公表される

河合塾

2018/6/27

このほど、2020年度から実施される「大学入学共通テスト」（以下、「共通テスト」）について、現在検討されている問題作成の方向性等と今年11月に実施される試行調査（プレテスト）（以下、「試行調査」）の趣旨が大学入試センター（以下、「センター」）より公表された。

現在センターでは、昨年7月に文部科学省が公表した「大学入学共通テスト実施方針」に基づき、共通テストの問題作成や実施に向けた検証を行っている。今回公表されたのは、現時点での検討状況であり、各教科・科目における問題のねらいや実施方法等についての正式な決定は、今年度実施される試行調査の分析・検証を経て公表される予定である。以下で詳細をとりあげる。

【共通テストにおける問題作成の方向性等】

■英語資格・検定試験受験の際はセンターが事前にIDを発行

共通テストにおける実施教科・科目は【図表1】の通り予定されている。現行の大学入試センター試験（以下、「センター試験」）と同様、6教科30科目で構成されている。

外国語科目のうち「英語」については、2020年度から2023年度まではセンターが作問し共通テストとして実施する試験と、民間の資格・検定試験とのいずれかまたは双方が大学が利用できることが決まっている。このうち、センターが作問する「英語」の試験については、現行の「筆記」は「筆記（リーディング）」に改められる。試験時間は「筆記（リーディング）」80分、「リスニング」60分（うち解答時間30分）と変更なく、出題についてはCEFRとの対応でA1～B1相当のレベルとなる予定である。

また、民間の資格・検定試験については、その活用を支援するため「大学入試英語成績提供システム」が設置される予定である。一定の要件を満たすことが確認された資格・検定試験がこのシステムに参加し、受験生はそれらの試験から受験することになる。原則として現役生の場合、高校3年生の4月から12月までの間に受験した2回までの資格・検定試験の結果が大学に提供される。成績提供については、受験生が資格・検定試験受験の際に、センターからあらかじめ個人ごとに発行されたIDを記載することにより、試験実施主体からセンターへと成績が送付され、センターから大学へと提供される仕組みである。提供される成績は、各試験のスコア（バンド表示も含む）とCEFRの段階別表示、合否（合否がある場合）が基本となる。

【図表1】大学入学共通テスト 出題教科・科目について(予定)

教科	出題科目	選択方法	試験時間	教科	出題科目	選択方法	試験時間
国語	「国語」		100分	理科①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	理科①②の8科目から下記の選択方法により科目を選択 A: 理科①から2科目 B: 理科②から1科目 C: 理科①から2科目および理科②から1科目 D: 理科②から2科目	60分
地理 歴史	「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	10科目から最大2科目選択可(同一名称を含む科目の組合せは不可)	1科目選択 60分				
公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	2科目選択 130分(うち解答時間120分)	2科目選択 130分(うち解答時間120分)	理科②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	1科目選択 60分	2科目選択 130分 (うち解答時間120分)
数学①	「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」	2科目から1科目選択	70分	外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	5科目から1科目選択	「筆記(リーディング)」80分 「リスニング」(「英語」のみ) 60分 (うち解答時間30分)
数学②	「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・数学B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	4科目から1科目選択	60分				

※大学入試センター資料「『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査(プレテスト)の趣旨について」より
※下線は、現行センター試験との相違点を示す

■国語記述式—小問ごとに4段階評価、大問全体の総合評価は5段階評価

共通テストでは、「国語」「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」において、それぞれ小問3問の記述式問題が導入される。

「国語」では、マーク式問題とは別に、大問1題の記述式問題が出題される。小問は3問構成で、解答字数20～30字程度、40～50字程度、80～120字程度を記述する問題がそれぞれ1問ずつとなる予定である。内容は実用的な文章を主たる題材とするもの、論理的な文章を主たる題材とするものまたは両方を組み合わせたものが出題される。解答時間は、記述式問題導入に伴い「国語」全体で現行のセンター試験の80分から100分へと延長される。

国語記述式の成績については、マーク式問題の配点とは別に、段階別評価が示される。小問ごとの4段階評価（a～d）に加え、総合評価として80～120字程度を記述する小問についてのみ1.5倍の重み付けを行った上で5段階評価（A～E）を示すことが検討されている【図表2】。

「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」では、数学Ⅰの範囲から記述式問題が出題される。数式を記述する問題、または問題解決のための方略等を端的な短い文で記述する問題が3問、マーク式問題と混在する形で出題される予定だ。解答時間は「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」とも、現行のセンター試験の60分から70分へと延長される。成績については、「国語」と異なり段階別評価は行われず、マーク式問題と同様に配点が行われる。

【図表2】共通テスト国語記述式問題
総合評価5段階表示のイメージ

問1, 問2	a,a	C	B	A
	a,b			
	a,c	D	C	B
	b,b			
	a,d			
	b,c	E	D	C
	b,d			
	c,c	a	b	c
	c,d			
	d,d	問3		

※大学入試センター資料『大学入学共通テスト』における問題作成の方向性等と本年11月に実施する試行調査（プレテスト）の趣旨についてより

■成績は各科目9段階程度の段階別評価も大学へ提供

共通テストの成績については、素点及び「国語」記述式問題の段階別評価のほか、各科目について9段階程度の段階別評価を参考情報として大学へ提供することが検討されている。また、「国語」については、古文、漢文の大問も含めた全体の素点の提供を原則とするものの、参考として大問ごとの素点についても提供することが検討されている。なお、記述式問題導入に伴い、センターから大学への成績提供時期は現行のセンター試験よりも1週間程度後ろ倒しされる見込みである。

このほか共通テストについて検討されている事項として、過年度卒業生用の別問題は作成しない方向で考えられている。また、基礎を付さない理科（物理、化学、生物、地学）では、各科目のなかの選択問題は設定されない予定だ。

【2018年度試行調査の趣旨】

■平均得点率(平均正答率)は5割程度となるよう作問

今年11月に、全国の大学を会場として2回目の試行調査が実施される。そこでは現時点での共通テストにおける問題作成の方向性を踏まえた出題がなされ、この結果の分析・検証を経て問題作成の方針が決定されることとなる。平均得点率（平均正答率）については、5割程度となるように実施・検証される予定である。

なお、実施科目については、共通テスト出題科目のうち、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「地理A」「世界史A」「日本史A」「倫理、政治・経済」「簿記・会計」「情報関係基礎」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」を除いたものとなる。

■英語は「筆記(リーディング)」「リスニング」の配点を均等として実施

試行調査「英語」では、「読むこと」「聞くこと」の能力をバランスよく把握するため、「筆記(リーディング)」「リスニング」が課される。

「筆記(リーディング)」では、資格・検定試験の活用を通じて4技能の総合的な評価がなされることを踏まえ、試行調査においては、「読むこと」の力を把握することを目的とし、発音、アクセント、語句整序などの問題は出題せず実施、検証される。

「リスニング」の音声については、アメリカ英語以外にイギリス英語や英語を母語としない話者による読み上げも行われる。また、昨年度の試行調査では読み上げ回数がすべて2回読みのバージョンAと、1回読みと2回読みの問題が混在するバージョンBの、2種類の問題で実施されたが、今年度は昨年度のバージョンBにあたる1回読みと2回読みが混在する構成で実施される。配点については、英語教育改革のなかで各技能の能力をバランスよく把握することが求められていることや、多くの資格・検定試験で各技能の配点が均等となっている状況を踏まえ、試行調査では「筆記(リーディング)」「リスニング」の配点を均等として実施される予

定だ。最終的な配点については、試行調査の実施状況や関係者の意見等を踏まえて決定されるものの、各大学の入学者選抜において具体的にどの技能にどの程度の比重を置くかについては、各大学が4技能を総合的に評価するよう努めるという実施方針を踏まえつつ判断するという点に変わりはないとされている。

【今後のスケジュール等について】

■ 共通テストの実施に関する正式な決定の公表は来年度以降

今後のスケジュールとして、今年度11月に実施される試行調査の結果については、今年度中に公表される見込みである。共通テスト実施に関する正式な決定事項については、来年度初頭に文部科学省が策定する「大学入学共通テスト実施大綱」を踏まえてセンターが策定する各教科・科目における問題のねらいや実施方法等に関する通知や、2020年度初頭の「大学入学共通テスト実施要項」を通じて公表される予定だ。

なお、今年度中には「地理A」「世界史A」「日本史A」の問題例が公表されるほか、来年度初頭にはマーク式問題における新たな解答形式（当てはまる選択肢をすべて選択する問題など）の実施の有無や、「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「簿記・会計」「情報関係基礎」の問題作成のねらい等が公表される。

2024年度以降の共通テストは、新学習指導要領に基づく新しい教科・科目により実施されることとなるが、詳細については2022年度初頭頃に文部科学省及びセンターから公表される。

【今後のスケジュール】

- 2018年11月
試行調査の実施(2019年1月～3月に分析結果公表)
- 2018年度中
「地理A」「世界史A」「日本史A」の問題例公表
- 2019年度初頭
「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」「簿記・会計」「情報関係基礎」の問題作成のねらい等を公表
マーク式問題における新たな解答形式の実施の有無を公表
「大学入学共通テスト実施大綱」公表(文部科学省より)
- 2019年度中
試行調査の実施
2020年度以降の検定料について公表
- 2020年度初頭
「大学入学共通テスト実施要項」公表
- 2021年1月
共通テスト実施
- 2022年度初頭頃
2024年度以降の新学習指導要領に基づくテストの詳細を公表(文部科学省及びセンターより)